

二、救療ノ施設

1 委託診療

地方ノ實情ヲ知悉シアル市町村長並方面委員ヲシテ救療券ヲ交付セシメ縣内一般醫師、藥劑師ノ治療投藥ヲ爲サシメタリ。

2 出張診療

醫師ノ所在地ヨリ一里以上ヲ隔タリタル僻村二十ヶ所ヲ選ビ開設セリ。

出張診療回数四回乃至六回出張診療醫ハ縣醫師會員ヲ之レニ充テリ。

3 巡回診療

開業醫ナキ(出張診療所ヲ開設スル程度ノ僻村ニ非ザルモノ)僻村約十ヶ村ヲ選ビ毎月一回醫師、藥劑師ヲ巡回セシメタリ。

滋賀縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於ケル醫療救護費ハ全額ヲ^{財團}恩賜濟生會ヲ通ジ本縣ニ配當セラレタルヲ以テ小額ナレドモ縣費ヲ加ヘ縣下醫師ノナキ僻陬十ヶ村ニ對シ醫師九名看護婦事務員七名ヲ囑託シ毎月一ヶ村四回ノ出張診療ヲ實施シタルト縣下病院及地方開業醫師及藥劑師產婆ニ委託シ一般ノ醫療ノ資ナキ多數薄倖者ノ救療ニ努メタリ、之ガ事業實施ニ就テハ縣下各市町村長及方面委員ヲ督勵シ漏救濫救等遺憾ナキヲ期スルニ努メ之等事務ノ取扱ニ付テハ凡テ^{財團}恩賜濟生會滋賀縣診療規程及同取扱細則及診療所設置規程ニ依リ施行シタリ。

其他特記スベキ事項

出張診療ヲ實施シタル縣下僻陬十ヶ村ハ一村平均四百戸ノ小村ニシテ地理的ニ他村トノ併合モ至難トサレ村勢又疲弊ノ極ニアリ、到底村費ヲ以テ醫師ノ設置困難ナリシモ今回^{財團}恩賜濟生會ノ出張診療ニ依リ村民全般多大ニ感激セリ

尙縣下全體ノ救療ニアリテモ早期診療ヲ受ケシムルヲ得從テ重患者ノ減數ヲ示シツ、アル等常ニ感謝サレツ、アリ本事業ノ一層緊要ナルト共ニ今後繼續實施サル、様各地方ヨリ熱望サレツ、アリ。

岐阜縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於ケル醫療救護事業ハ前年度施設計畫ヲ踏襲シ實施セルモ豫算減額ニ依リ各施設事業中若干ノ縮少ヲ行ヒ事業ヲ遂行セリ。

即チ委託、出張、巡回ノ三診療方法ニ依リ委託診療ハ縣社會課ニ於テ、出張診療、巡回診療ハ縣衛生課ニ於テ繼續施行セリ。

出張診療ハ前年度設置セル出張診療所中一部ヲ廢シ他ハ其ノ儘繼續シ囑託醫師ヲシテ年百九十圓乃至三百八十圓ヲ交付助成シ土地ノ事情ニヨリ月四回乃至十回出張診療ノ義務ヲ負ハシメ巡回診療ニ於テハ縣職員タル醫師ヲシテ診療業務ヲ擔當セシメ各施設ヲシテ普遍的ニ救療事業遂行ニ努メ豫期以上ノ成績ヲ舉グルヲ得タリ。

長野縣

實施ノ概況

昭和九年度末ヲ以テ事業廢止ノ運命ニ逢着センカト危懼セラレタル本事業モ幸ニ本年度以降國費ヲ以テ繼續セラル、コト、ナリタル爲、關係者ノ喜ビ一般縣民ノ喜悅ハ實ニ目ノアタリ見ルガ如ク茲ニ本縣ニ於テモ從前通縣費ヲ支出シテ更始一新本事業ノ實施ニ努メタリ。而シテ之ヲ一轉機トシテ其ノ施行上ニモ幾多ノ變更ヲ加ヘタルガ就中多分ニ減額セラレタル經費ノ補填方法ニ付テハ苦慮ヲ要シタル處ナリキ。

尙改變セラレタル事項中主ナルモノヲ列擧スレバ左ノ如シ。

一、規程及關係諸通牒ノ改正

事業名稱ヲ「恩賜記念救療事業」ト改メタルヲ始メトシ、診療所標札ノ改正其他全般的ニ改正シタリ。

二、出張診療所囑託醫ノ一齊改嘱及巡回診療班擔當區域ノ更改
 出張診療所囑託醫名稱ノ變更及手當額ノ更改ノ爲一齊解嘱シ新ニ改正規程ニ基キ囑託ス尙巡回診療班擔當區域ヲ一部擔任換
 セシメタリ。

三、特別施設施行個所ノ變更
 特別施設タル巡回診療及出張診療ハ可及の前年度施行個所數ヲ保持スベク努メタルモ比較的好條件ノ個所ヨリ數ヶ所ヲ減ジ
 タリ。

1 巡回診療 一五ヶ村(前年度一五ヶ村)

新 設 三ヶ村

出張診療ヨリ編入 二ヶ村

出張診療ニ變更 三ヶ村

廢 止 二ヶ村

2 出張診療 四九ヶ村(前年度五二ヶ村)

新 設 三ヶ村

巡回診療ヨリ編入 二ヶ村

巡回診療ニ變更 二ヶ村

廢 止 七ヶ村

四、一部經費ノ地元負擔

特別施設タル巡回診療、出張診療ヲ實施スル個所ニ對シテハ從來設備費其他雜費若干ヲ負擔セシメタリシガ本年度ヨリ新ニ
 藥品費、消耗品費ヲモ負擔セシメ以テ歳入減ニ備ヘタリ。

斯クテ爰ニ以上ノ新内容ヲ以テ實施シタルガ月ト共ニ何レモ順調ニ進展スルヲ得冬季間積雪ノ候ト雖モ別段支障ナク極メテ平
 穩裡ニ所期ノ目的ヲ達成シ得、縣民感謝ノ裡ニ終始スルヲ得タリ。

宮城 縣

實施ノ概況

一、縣下二市二百ヶ町村中昭和十年度ニ於テ 恩賜財團 濟生會ヲ通ジテ外來患者ニ對シテ診療ヲ行フベキ町村ハ二市百六十一町村ニ
 シテ內實施シタルハ二市百四十七町村ナリ(三十九ヶ町村ニハ縣立診療院又ハ出張診療所設置シアル關係上外來患者ニ對シ
 テハ診療ヲ行ハズ)但シ入院患者ニ對スル診療ハ全縣下ニ施行シ居ルモ事實施行シタルハ百二十九ヶ町村ナリキ。

二、別表ニ揭示セル如ク外來實人員九六三名入院實人員二五七名ニシテ之ヲ月別ニ見ルト年度初ノ四月ニハ外來實人員三四一
 名入院ニ於テハ八五名ニシテ漸次實人員減少セル如キモ之ハ大部分重症或ハ慢性ノ患者ナルタメ繼續治療ヲ受ケタル結果ト
 豫算ノ關係上益々要救療者ノ激増スル近時ノ實相ニモ不拘新患者ノ診療ヲ見合セタルニ基因スルモノナリ。

著シキハ一ヶ年治療ヲ受ケ尙轉歸ニ至ラザルモノモ相當數ニ上リタリ。

三、前記ノ如ク救療範圍ハ殆ンド全縣下ニ亘リ受診者ト否トヲ問ハズ縣民均シク聖恩ノ無窮宏大ナルニ益々感激シ居ル状態ナ
 リ殊ニ農漁山村ノ無告ノ窮民ハ之ニ依リ始メテ醫療ノ惠澤ニ浴シ感謝ノ念ハ其ノ言其ノ行ニ表ハレ國民生活ニ一大曙光ヲ與
 ヘシモノ甚大ナリ。(別表略)

其ノ他特記スベキ事項

一、危キ一命ヲ取止ム

本年二月十四日杜○郡○川町巡回診療所ニ診療開始申午後三時頃(當時北條衛生課長モ視察ノ爲出張中)島内南端字寺間○
 ○助妻須○み○(三十三年)ハ重症ニテ往診ヲ請ハレタル爲擔任醫及看護婦一同家ニ赴キタルニ患者ハ四十度ニ、三分ノ高
 熱産後ノ急性肺炎ニシテ數日前發病シ前日同町篤ノ神(海上五哩程ヲ距ツ)ニ至リ開業醫ニ往診ヲ需メタルモ現在三名アル

開業醫ハ種々ノ事情アリテ何レモ不應ニ歸シ已ムナク夫レヨリ四里二十町ヲ距ツル石卷市ニ至リ同市互理醫師ノ來診ヲ受ケタルモ此ノ狀態持續セバ入院治療ノ外ナキ旨ヲ含メテ醫師ハ歸宅シタルモ重症患者ノ運搬等ヲモ氣遣ヒ居ル中巡回診療日程ナルヲ知リテ往診ヲ請フニ至リタルモノニテ往診ノ結果兩側肺炎ニテ重症ナリシヲ以テ不取敢適當ナル手當ヲ施シ翌早朝再往診シタルニ病勢變化ナキモ重症依然ノ儘ニ在リ又々最善ノ方法ヲ施シ其ノ日ハ日程ノ關係上次ノ巡回診療所ニ至リタルモ翌十六日早朝發動船ヲ以テ三度往診シタルニ患者ハ稍小康ヲ得快方ノ見込立チタルヲ以テ充分ナル手當ト投藥ヲ施シ次々ノ巡回診療ヲ爲シ一行歸應シタルガ其ノ後順調ニ經過シ全快シタル旨熱誠ヲ込メタル禮狀ノ郵送ニ接シタリ。

一、巡回診療患者ノ禮狀(原文ノ儘)

謹啓時下梅雨ノ候課長殿ヲ始メ課員御一同様ニハ愈々御清昌ノ段奉大賀候

却説 恩賜巡回診療開設以來御擔當ノ先生並班員各位ノ御厚情ニ預リ奉謝候御陰様ニテ開設以來患者ノ大半ハ既ニ全快仕リ深キ御聖恩ニ報ヒ可奉一家々業ニ精勵致シ居リ候申上グル迄モ無之先生方常ニ懇切丁寧ヲ旨トセラレ獻身のニ患者ノ診療ニ當ラレ危キ一命ヲ救ヒ或ハ失明セントスル者恐ルベキ惡質ノ疾患ヲ治療セラレ又ハ病原ノ早期發見ニ依リ幸ヒ不幸ヲ見ザル者等枚擧ニ遑ナク野生等一同其ノ御努力ニ對シ御禮ノ言葉モ無之候甚ダ失禮ニハ候得共茲ニ御禮申述度如斯ニ御座候

敬具

昭和十年六月三十日

加○郡○崎村

○ 野 た ○ 子

外 十九 名 (氏名略)

宮城縣衛生課長宛

福島縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ昭和十年年度國費七四、三八六圓ヲ醫療救護費トシテ配當アリタルヲ以テ前年度ノ救療成績ト縣下ノ實情トニ鑑ミヨリ有意義ナル成績ヲ收メ以テ救療ノ實ヲ舉ゲムト一層周到ナル施設計劃ヲ樹立シ前掲救療費ノ内二四、二一〇圓ヲ巡回診療費ニ當テ之ニ縣費四、〇九九圓ヲ加ヘ醫師、看護婦各一名ヲ一班トスル巡回診療班ヲ繼續組織シ各班ニ専用ノ自動車ヲ使用シ開業醫師ナキ交通不便ナル農山村三六ヶ村ヲ選定十五日乃至二十日ニ一回ノ豫定ヲ以テ救療ヲ實施シタル處取扱實人員一四、三七三人治療延日數九七、〇七七日ニ達シタリ。

更ニ前掲救療費ノ内五〇、一七六圓也ハ恩賜濟生會ヲ通ジ縣醫師會ト契約ノ下ニ各郡市ノ開業醫師ニ一般委託診療ヲ、開業醫師ナキ農山漁村四二ヶ村ニ對シ委託出張診療ヲセシメタルトコロ救療實人員三五、六三〇人治療延日數三九九、〇五三日ナリ。

尙此ノ外齒科醫師ノ委託診療並ニ藥劑師ガ醫師ノ處方箋ニ依ル調劑及産婆ノ助産等一切ヲ引受ケシメタルニ齒科醫師ノ取扱實人員九四人治療延五四四日藥劑師ノ調劑二三人助産取扱二六三人ノ救療實績ヲ收メタリ。

一方醫療ノ途ヲ有セザル結核患者ヲ恩賜濟生會ノ救療事業トシテ縣立回春園ニ收容救療セシメタリ之ガ取扱患者實人數二四人治療延三、一八〇日ナリ。

以上巡回診療、委託診療、出張診療、回春園救療結核患者ヲ總括スルニ取扱患者總實人員五〇、〇二七人治療延四九九、三一〇日ヲ算セリ。

其ノ他特記スベキ事項

本縣ニ於テハ昭和七年以降恩賜醫療救護ノ御趣旨ヲ全面的ニ普及徹底ニ努メ本醫療救護事業ニ過誤ナキヲ期スルト共ニ昭和七年九月本事業ノ基礎的準備ニ萬全ヲ期シ爾來實施中ニシテ昭和十年年度ニ於ケル取扱實人員五〇、〇七二人治療延日數四九九、三一〇日ニシテ右實人員ヲ百五十八萬縣民ニ對比スルトキハ三%強ニ相當スル救療ノ實ヲ舉ゲタリ。

而シテ一度巡回診療施行セシ村ニ於テハ事情ニ依リ中止セラル、ガ如キコトアラムカ直ニ別記ノ如ク再度ノ巡回診療ヲ要望ス

ルノ實情ニシテ本救療事業ノ趣旨相當普及徹底シタルモノト信ズ。
現下ノ時局ニ於テ本救療事業ガ縣民ニ與ヘラレタル影響ハ當ニ農山漁村ノ困窮セル罹病者ヲ救療シタルノミナラズ地方民ノ精神上ニ及ボシタル效果甚大ナルモノアリ。

新館
大須 甲第四〇六號

巡回診療ニ關スル御願

從來本組合村ハ巡回診療班御出張ノ上診療相成居リ候處今回新館村ヘハ出張醫有之候ニ付大須村ハ地形上不便ナル所ニシテ一度醫師ヲ迎ヘレバ十五圓乃至二十圓相掛リ中産以下ニアリテハ治療ヲ受クルコトヲ出來得ザル状態ニテ遺憾ナガラ重態或ハ死ニ陥ラシムル様ナ次第ニ有之候條右御含ミノ上新館村分ヲ更ニ大須村ニ加ヘ御診療相成様御詮議相成度及御願候也

昭和十年五月二十九日

相馬郡新館村組合村長 久 米 耕 造

福島縣知事 伊 藤 武 彦殿

感謝 狀

當玉野村ハ山間僻陋ノ貧弱村ニシテ村醫ナク常ニ不自由ヲ感ジ居リ候處本年度ヨリ縣巡回診療回数多クナリ村民何レモ異口同音ニ感謝致シ居リ候縣巡回醫ノ診療ニツキ其ノ效果ノ顯著ナル美談ハ枚舉ニ遑御座ナク候モ去ル第五回ノ巡回診ノ折〇藤〇ツ(十五歳)ト申ス「チフテリア」患者有之候ニ持チ合セノ注射液ナキ故運轉手君ハ態々四里モアル掛田町ニ出張致シテ該藥ヲ求メ直チニ注射ヲ施シタル故一回ノ注射ニテ全快ヲ見タリ之レ一重ニ巡回醫ノ效果ト感謝スル次第ニ御座候茲ニ謹ンデ村民一同ニ代リ小職ヨリ深く感謝奉リ候

昭和十年七月八日

相馬郡玉野分教場訓導 渡 邊 綱 儀

福島縣警察部長殿

岩 手 縣

實 施 ノ 概 況

昭和十年度ニ於ケル時局匡救醫療救護施行ニ關シテハ昭和十年四月十六日十衛第一六四號ヲ以テ既報ノ實施計畫並救療規定ニ準據シ既往ノ經驗及社會ノ變遷ニ順應シ本事業遂行ニ遺憾ナキ様努メタル結果別表ニ示ス如ク救療總實人員一八、七二二人延人員二七七、二四五人ヲ救療セリ。

イ、巡回診療

縣救療醫、産婆ヲ以テ組織シ醫師ナキ村及醫師アルモ面積廣大(十万里以上ノ村)且交通不便ナル村ニ對シ二日乃至三日間宛巡回診療シ其ノ實人員一一五人延人員七二六人ヲ救療セリ。

ロ、出張診療

出張診療ハ管下郡市醫師會員ニ依嘱シ隣接村ニ醫師ナク且醫師アルモ面積廣大交通不便ニシテ醫療ノ圓滑ヲ缺ク縣下三十一ヶ村ニ對シ月二回乃至三回宛出張救療シ其實人員七二二人延人員八、一二四人ヲ救療セリ。

ハ、委託診療

委託診療ハ縣醫師會郡市醫師會員、縣藥劑師會員、縣齒科醫師會員、縣産婆會員ニ依嘱シ往診、入院、外來、藥劑交附、助産ノ五方法ニ依リ診療シ其ノ救療實人員一七、八八五人延人員二六八、三九五八人ヲ救療セリ。

ニ、開眼診療

昭和九年十月ヨリ本年度ニ繼續シ縣下十七ヶ所ニ於テ盲人一、四〇〇名ノ檢診ヲ施行シ内貧困者ニシテ開眼ノ見込アル一五三名ニ對シ本會救療費ニ依ル開眼診療ヲ施行セル結果内一名ヲ除クノ外全部開眼スルノ好成績ヲ擧ゲタリ之ガ診療ニ依リ生來盲目者ニシテ開眼セルモノ失明後十數年ニシテ開眼セル者等多ク本人ハ勿論家族親戚等何レモ聖恩ノ宏大ナルニ感激シ居

レリ。

ホ、助 産

助産取扱ニ關シテハ未ダ十分趣旨徹底セザル向アリ其ノ取扱町村概ネ定マリ居リ全縣下一般ニ及バザルヲ以テ努メテ其ノ利用ヲ督勵シタル結果其取扱實人員二六六人ニ達シタリ。

ヘ、救急箱ノ配給

縣下醫師ナキ村中特ニ交通不便ナル箇所ニ對シ應急措置自療用衛生材料函(救急箱)ヲ昭和七年度以降七二一個購入區長宅小學校、巡查駐在所、方面委員宅ニ配置シ一般民ニ利用セシメタルニ其ノ需用頗ル好評ヲ博シ之ガ配置ヲ要望スル村極メテ多ク更ニ本年度ニ於テモ七五箇ヲ購入配給セリ。

ト、施 藥

縣下醫師ナキ村及醫師アルモ面積廣大交通不便ナル村ニ居住スル要救療者ニ對シ醫師ノ來ル迄ノ應急措置ニ服用セシムル爲縣ニ於テ調製セル家庭藥(一袋十八方劑)五、六九〇袋ヲ配付シタルニ其ノ利用成績極メテ良好ナリ。

チ、救急箱補充藥配給

先ニ配置セル救急箱七二一箇ニ對シ内容藥品消耗濟ノ分ニ對スル補充藥ヲ購入シ縣下ニ配給シタルニ豫想外良好ナル利用成績ヲ納メタリ。

其ノ他特記スベキ事項

本縣ハ面積廣大ニシテ地勢山岳相重疊シ交通便ナラズ人口稀疎ナル山間僻陬ノ地多ク住民亦生活程度低ク醫療普及ノ圓滑ヲ期シ得ザル既存ノ事實ニ加フルニ社會的經濟的不況ニ次デ昨年ノ凶作ノ結果公私經濟全ク逼塞シ特ニ他縣ニ多クノ類例ヲ見ザル農山漁村ノ窮極セル經濟事情ハ益々要救療者ノ劇増ヲ見ルニ至リタルガ過去三ヶ年半ニ亘ル時局匡救醫療救護ノ恩典ニ浴スルヲ得其ノ施藥救療ノ均霑ニ浴シタル者何レモ厥旨悠遠ニシテ極スル所ナキニ感奮興起正業ニ勵ミツ、アル實情ニ在リ之全ク

御聖旨ニ基ク本施設ノ然ラシムル處ニシテ只々感激ノ外ナシ尙本年度ニ於テ感激スベキ挿話多々アルモ其ノ一、二ヲ摘録スルニ左ノ如シ

○澤郡○山村

(大正十五年三月三日生)

右者昭和十年十一月十九日狩獵者ノ爲ニ散彈ニテ膝下ニ全ク歩行不可能ノ銃創ヲ負ヒ治療セントスルモ生家ハ元來小作農ノ傍ヲ父滿平ハ日雇稼ヲ以テ一家五名ノ糊口ヲ凌ギ來リタルモノニテ殊ニ昨年ノ冷害凶作ノ爲生活ニ窮シ多額ノ負債アリ醫療ノ途ナク一家全ク途方ニ暮レシガ此ノ事ヲ知リシ同村受持巡查ハ直チニ恩賜診療券ヲ下付シ入院治療セシニ一時重症ト認メラレシモ其後經過良好全快シ以前ノ如ク通學スルコトヲ得タリ爾來常ニ御聖恩ノ宏大ナルニ感泣シ日夜聖恩ニ浴シタルヲ思ヒ家族一同感激シアリ。

上○伊郡綾○村

(慶應元年一月十六日生)

右者昭和五年以來坐骨神經痛ヲ患ヒ引續キ恩賜濟生會ノ治療ヲ受ケ其ノ恩澤ヲ蒙リツ、アリ極貧者ニシテ繩、炭スゴ等ヲ作リ之ヨリ得タル僅カノ賃金ヲ以テ生計ヲ持續シアリ本人ハ常ニ「俺ガ家族ハ一日働イテモ米一升買ヘナイ様ナ始末デ四人ノ家族ガ粥モ破々喰ハレナイ有様ナレバ連モ藥等ハ服メナイガ御蔭様デ助ケラレテ居ルノデ藥代ヲ勘定スレバ一日ニ米五合以上ヲ扶持サレルト同ジダ何ト有難イモノデ」ト受持巡查ノ姿ヲ見ル毎ニ涙ヲ流シテ語り尙平素近隣ノ人々ニモ繰返シ此ノ恩澤ニ浴シタルコトヲ一家ハ無上ノ光榮トシテ感激シ幾度カ村役場、巡查駐在所ニ來リ聖恩ノ厚キニ感泣シアリ。

○戸郡長○村

(當四十九年)

右者無資産ニシテ妻ノ外老母及子女三名ノ家族ニシテ本人夫妻ハ日雇業ヲ爲シ辛ウジテ生計ヲ營ミツ、アリシガ右本人ハ十年前ヨリ眼病ノ爲盲人同様トナリ勞働不能爾來妻ノ日雇ニテ一家六名ノ糊口ヲ凌グコト、ナリ日雇收入月六、七圓ノ時ハ老母子女ノミニ辛ジテ食ヲ攝ラセ夫妻ハ食ヲ攝取スルコト不能ノ場合一再ナラズシテ身ノ不遇ニ呻吟シアリタルモノニシテ親族ノ者ト雖モ生活ニ餘裕アルモノナク此ノ窮狀ヲ唯一人救フ者ナク粗衣粗食悲慘ナル生活ヲナシ一生涯救ハレザルモノト悲嘆ニ暮レアリシガ昨年十一月盲人開眼診療ノ爲岩手病院ニ入院診療ヲ受ケタルニ二週日餘ニシテ開眼治癒ニ向ヒ全ク再生ノ幸福ニ恵レ現在ハ以前ノ如ク妻ト共ニ家業ニ勵ミツ、アリ之偏ニ恩賜ノ醫療ニ因ルモノト家族及親戚ハ勿論近隣ノ者モ鴻恩ノ厚キニ感泣シ居レリ。

青森縣

實施ノ概況

本縣ハ連年ノ冷害水害竝ニ漁村ニ於ケル不漁ニ因リ農山漁村共ニ疲弊其ノ極ニ達シ之ガ爲メ醫療救護ヲ要スル者昭和十年十二月末ニ於ケル調査ニ於テ一萬二千二百八十一戸其ノ家族數實ニ六萬七千五百七十二人ノ多數ヲ算シ之ニ對スル普遍的救護方法トシテ委託、出張、巡回、診療ノ外ニ家庭救療藥ノ配給ヲ行ヒ右ハ何レモ

イ、委託診療ハ豫メ決定シアル要救療者名簿ニ登載セラレアル者ニ救療券ヲ發給シ縣下各開業醫、公私立病院ニ於テ協定料金を以テ診療ヲ委託セリ。

ロ、出張診療ハ醫療ノ便ナキ部落中三ヶ村ヲ選定シ出張診療所ヲ開設シ近接地ノ開業醫ニ委嘱シ豫メ決定シアル要救療者ヲ一ヶ月三回診療セシメタリ。

ハ、巡回診療ハ縣内ニ於テ最モ交通不便ノ僻陬ナル部落二十六ヶ村ヲ選定シ一ヶ月一回(二日間)醫師、看護婦、事務員ノ三名ヲ以テ組織セル診療班ヲシテ巡回診療ニ從事セシメタリ。

尙十年八月ノ水害ニ際シテハ其ノ被害最モ甚ダシカリシ南津輕郡大鰐町、北津輕郡三好村ニハ特ニ救護班ヲ組織シテ出張救

護ニ當ラシメ又冷害水害ニ因ル困窮狀況ヲ考慮シ十年十月ヨリ翌十一年三月マデ月二回診療班ヲ出張セシメタルモノ五ヶ村アリ。

ニ、以上三種ノ救護補助トシテ救療藥品ヲ要救護者一二、二八一戸ニ對シ配給セリ、配給方法ハ要救護戸數ニ按分シ各市町村長宛ニ送附シ該市町村長所轄警察署長協力ノ上主要救護者ニ配給セシメタリ。

藥品ハ^{恩賜}財團濟生會救療藥ノ名稱ヲ附シ内容左記ノ通りニシテ一戸分八十五錢ヲ要シタリ。

- 1 風ノ藥
- 2 胃腸藥
- 3 傷藥
- 4 皮膚膏
- 5 目藥
- 6 齒痛膏
- 7 痔ノ藥
- 8 繻帶

以上八種ニシテ藥品ハ何レモ青森縣社會事業協會常備藥製劑所ニ於テ調製セリ。

山形縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於ケル醫療救護費ノ國庫交付金總額五萬三千七十九圓、内三萬八千七十九圓ハ^{恩賜}財團濟生會ヲ通ジ從來ノ救療方法ニ依リ之ヲ行ハシメ殘額一萬五千圓ニ縣費四千四百圓更ニ昭和九年ニ於ケル本縣冷害凶作義捐金ノ内八千五百四十圓計金二萬七千九百四十圓ヲ以テ縣直接施行ノ事業トシ左記方法ニ依リ出張診療ヲ實施セリ。

尙縣直接施行ノ本事業ハ前年度迄學務部社會課ニ於テ實施シ來リシ處醫療救護事業ノ統一實施ノ方針ノモトニ^{恩賜}財團濟生會委託救療事業ト共ニ警察部衛生課ニ於テ主管シ從來ノ巡回診療ヲ出張診療ニ改メタルモノナリ。

一、出張診療

イ、出張診療ハ縣下醫師ナキ八十七ヶ村中僻陬ノ地ニシテ醫療ヲ受クルニ困難ナル四十三ヶ村ヲ選定一ヶ月三回づ、定期出張診療ヲ行フコト、シ縣醫師會ト契約ノ上隣接開業醫ヲ以テ之ニ當ラシメ更ニ縣藥劑師會及看護婦會ト契約シ出張診療ニ參加セシム。

ロ、出張診療ニ依ル診療患者ハ當該村民ノ傷病者ニシテ要救療者ハ之ヲ名簿ニ登録シ置キ之等患者ノ藥治料ハ別ニ協定セル範圍ニヨリ縣ヨリ縣藥劑師會ニ支拂ヒ其ノ他ノ患者ハ有料患者トシ縣藥劑師會ニ於テ患者ヨリ直接徵收スルコト、ナシ醫療ノ普及並ニ救療ノ徹底上遺憾ナキヲ期シタルモノニシテ當該村民ハ本事業ヲシテ恒久的施設タラシメラレシコトヲ要望スルヤ切ナルモノアリ。

二、恩賜濟生會委託救療

昭和十年度ニ於ケル濟生會委託醫療救護費配當額ハ三萬八千七百七十九圓ニシテ之ヲ前年度配當額(御下賜金、國費、災害關係國費)五萬一千八百圓ニ比シ一萬三千七百二十一圓ノ減額トナリタルモ救療部會ニ於テ協議ノ結果大體前年度ノ計畫ヲ踏襲スルコトニ決定診療券二萬枚ヲ發行シ縣醫師會及縣內公立病院並公立診療所ト契約シ事業ヲ實施セリ。
尙事業實施ニ當リテハ之ガ最善ヲ期スベク警察署長、市町村長及縣醫師會ニ對シ數次ノ通牒通達ヲ發シ諸般ノ事項ヲ指示シ注意ヲ促シ業績ヲ舉グルニ努メ一面豫算ノ經理ニ當リテモ細心ノ注意ヲ拂ヒ救療費ノ配當豫算三萬八千七百七十九圓ノ内、事務費ハ僅カ三百一圓四十一錢ノ少額ニ止メ他ハ凡テ救療費ニ充當シ遺憾ナキヲ期シタリ。

秋田縣

實施ノ概況

一、委託診療

醫療ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ市町村當局、警察官吏、方面委員等ニ於テ調査シ協議ノ上要救療者名簿ヲ調製シ其ノ名簿ニ登録セラレタル者ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ豫メ委託セル一般開業醫師ヲシテ診療セシム。

二、出張診療

僻陬ノ地ニシテ醫療設備ナキ二十九ヶ村ニ一ヶ月三回以上地方開業醫師ヲ出張セシメ主トシテ要救療者名簿ニ登録セラレタル者ヲ診療セシム。

三、委託助産

要救療者名簿ニ登録セラレタル産婦ニ對シ一般開業産婆ニ委託シテ無料ニテ助産セシム。

四、巡回産婆

開業産婆ノ居住セザル二十六ヶ村ニ對シ十二名ノ開業産婆ニ委託一ヶ村ヲ隔月毎ニ巡回セシメ妊産婦ノ攝生並育兒ニ關スル注意指導ヲナサシム又分娩ニ遭遇シタルトキハ助産ヲ爲サシム。

五、施藥

醫療設備ナキカ若ハ設備アルモ地理的關係ニヨリ醫師ノ來診アルマデハ相當ノ時間ヲ要スル僻陬地ニシテ常ニ醫療ニ惠マルザル四十四ヶ村ニ對シ應急用常備藥ヲ配給ス。

其ノ他特記スベキ事項

山○郡○井町
小學校第一學年 岩 ○ ○ 男
(當八年)

右父○助ハ北秋田郡荒瀬村ニ出生シタルガ昭和十年三月十六日山○郡○井町ニ分家トナリ妻某當二十九年、長男某當十一年長女某當十年、○男當八年、三男某當五年ノ六人家族ヲ扶養シ居リタルガ財産トシテ見ルベキモノナク他家ノ間借ヲ爲シ自己ノ土工稼ニ依リ辛フジテ生活シ居レリ。

然ルニ○助ハ附近ニ適當ノ工事ナキニ至レル爲妻五人ヲ殘シ北海道ニ出稼セルガ其ノ後送金ナキ爲同年七月二十六日妻某ハ同町居住ノ生家ナル養父長谷部某當六十九年(獨身ニシテ干魚行商ヲナシ貧困ノ生活ヲナス)ニ對シ一寸他町へ行ツテ來ルト稱シ長男長女及二男ノ三名ノ子供ヲ預ケ自己ハ三男當五年ヲ伴ヒ北海道彌生炭山出稼中ノ夫○助ノ下ニ出行セル儘右長谷部ニ對シ送金ハ勿論音信等モナク長谷部ハ自己一人ノ生活サヘ困難ナルニ他ノ子女三人ヲ養育スル途ナク所轄警察署ニ母親ノ歸郷方

ヲ願出デタリ因テ警察署ニ於テハ岩谷所轄警察署ニ對シ之ガ手續ヲ爲サシメタルモ送金ハ勿論歸郷セザルモノナリ然ルニ夫ハ助ハ昭和十一年一月三十日作業中過失ニ依リ死亡シタル爲妻某ハ彌生炭山居住ノ姉ノ下ニ身ヲ寄セ居リタルガ二月上旬初メテ子供三人送還方ノ申越アリタルモ長谷部ハ之ガ旅費ナキ爲再三送金方交渉シタルガ送金ナキ爲其ノ儘トナリ居リタリ。然ルニ二男〇男ハ三月上旬ニ至リ左脛部ニ腫瘍ヲ生ジ休校シ居リタルガ益々激痛ヲ覺ユルニ至ルモ糊口ニ苦シム長谷部ノ事トテ醫療ヲ受ケシムルノ途ナク賣藥ノ類ヲ塗布シテ一時ヲ凌ギ居リタルヲ戸口調査ニ從事セル成田巡査ノ知ル所トナリ直チニ醫療救護券ヲ與ヘテ〇井町醫療組合病院ニ診察ヲ受ケサシタルニ左脛部骨髓炎ニシテ手術ヲ要シ約三ヶ月ノ治療ヲ要スルモノナルコト判明セルヲ以テ手術ヲナサシムルト共ニ學校長、町當局並方面委員等ト協議ノ上見舞金ヲ贈ル等能フ限リノ便宜ヲ與ヘタリ而シテ手術ノ結果幸ヒニ良好ニシテ通院治療スルニ至リタルガ右通報ニヨリ母某ハ北海道ヨリ歸町シ看護ニ努メタルモ〇男ノ病狀渺々シカラズ更ニ右胸部ヲモ切開手術ヲナスニ至リ多量ノ膿汁ヲ排出シ引續キ治療中ナルガ母某及長谷部某ハ貧困ニシテ醫療不可能ナルニ此ノ恩惠ニ浴シ感謝ノ言葉モナク感泣シ居レリ。

南〇〇郡下〇〇村

戸主某長男 日雇 安 〇 某

(當三十五年)

- 一、家族 戸主タル父某當六十四年ハ貧困ノ爲南〇〇郡〇〇村ノ某家ニ夜廻リトシテ雇ハレ妻某當三十四年ハ家事ニ従事長女當十四年長男當十二年、二男當十年、三男當八年、四男當六年計八名ノ家族ナリ。
- 二、資産 宅地六十坪、家屋一棟七十圓代位、小作田地二反歩アリ其ノ傍ラ日雇ニヨリ生活スルモ負債二百圓アリテ糊口ニ苦シム状態ナルガ親戚等ニ於テモ之ヲ救済スルノ資力ヲ有スルモノナキ状態ナリ。
- 三、昭和五年頃ニ於テハ小作田地七反歩餘アリテ細々ナガラ衣食住ニ大ナル支障ナカリシガ引續ク不況ノ爲昭和八年頃ニハ小作田地五反歩ヲ他ニ讓渡シ日雇ニ依リ漸ク糊口ヲ凌ギ居ル狀況ナリ。

然ルニ妻某ハ痔疾ノタメ多額ノ醫療費ヲ仕拂フコト、ナリタルガ之ガ支出ノ爲殘米全部ヲ賣却シ昭和十年十月末退院セルガ更ニ十二月四日二男某ハ友人ト遊戯中高所ヨリ墜落骨膜炎トナリテ入院スルノ止ムナキニ至リタルモ既ニ妻ノ醫療費支出ニテ困窮シタル際トテ如何トモスル能ハズ殊ニ妻ハ病後恢復セズシテ再發シタル爲殆ンド途方ニ暮レ家屋ヲ賣却シテ醫療ヲ受ケントスルモ前借ノ擔保トナリテ收入ノ途ナク長男某ハ全ク進退谷リテ只泣クヨリ致方ナク爲ニ骨膜炎ノ二男ハ益々悪化スルノ状態ヲ吉田巡査ガ探知シ醫療救護券ヲ交付シテ二男ヲ入院セシメ二十五日ノ治療ニテ全治退院シ續イテ妻某ヲモ同様加療セシメタルニ何レモ全快シ今ハ夫婦共ニ日雇ニ勵ミ死一步前ニ醫療救護ノ惠澤ニ浴セシニヨリ本人等ハ勿論親族等ニ於テモ御上ノ御慈愛ニ感謝シ居ル狀況ナリ。

福井縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於テ本縣ハ國庫補助金一萬二百三十圓配當ヲ受ケ別紙決算書ノ通り醫療ノ資ニ乏シキモノニ對シ警察署長、市町村長ノ協調ノ上救療ヲ行ヒタリ。

一、巡回診療

縣下無醫村中交通不便甚シク且ツ貧窮村ノ爲醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル四ヶ村ニ對シ縣ニ於テ醫師一、調劑員一、雇一ヨリナル巡回診療班ヲ組織シ毎月三回宛定期巡回診療ヲ行ヒタリ。

二、囑託醫出張診療

村内開業醫ナク開業醫師アルモ村内交通不便ニシテ醫療ヲ受クルニ困難ナル村十三ヶ村ニ對シ近接町村醫師ニ囑託シ毎月定期三回乃至十回宛出張診療セシメタリ。

三、一般委託診療

醫師在住スル市町村ニ對シテハ地方公私立病院、開業醫師ニ委託シテ診療券入院券等ニ依リ診療ヲ爲サシメ又必要ニ應ジテ

開局藥劑師ニ委託シテ投藥セシメタリ。

其ノ他特記スベキ事項

本縣醫療救護ノ實績ヲ見ルニ被救護者ハ何レモ縣内僻陬ノ地ナルカ或ハ貧困者ニシテ醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル者ナレバ之等階級者ノ苦痛トスル醫療費ノ負擔ヲ輕減シ或ハ早期發見治療ニ依リ一家生活ノ困窮ヲ未然ニ防止シ又衛生思想ノ無知ニ誘因セラレタル罹病率ヲ減少シ醫療事業ノ關心ヲ高メ縣下各地ニ醫療事業ノ諸計畫ノ出現ヲ見ルニ至リタル現象ナリ。

石川縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於テハ前年度ニ於ケル實施方針ニ基キ之ヲ委託診療、出張診療、救療藥配布トニ大別シ石川縣醫師會並ニ縣内ニ於テ開業セル齒科醫師、藥劑師及產婆ニ委嘱シ助産以外ハ治療券制度ニ依リタリ。

要救護者選定ニ關シテハ戶數割一戸平均額ノ三分以下ノ者ニ就キ救療ノ範圍ヲ限定セシメタルモ尙要救護者戶數一七、五三六戸人員七八、三七四人トナレリ。

治療券ハ恩賜治療券、恩賜入院治療券、恩賜調劑券ノ三種類トシ之ヲ豫メ町村へ要救護者並ニ前年度患者數等ヲ參酌シテ按分配當シタリ、而シテ現今ノ社會情勢ヨリシテ濫給ニ陥ルコトナキ様特ニ町村長ニ注意ヲ與ヘ以テ事業ノ經理ニ當リタリ。

元來治療券制度ノミニ依ル救療ハ地理的天候等ノ關係ニテ患者ノ不便トスルコロ多キニ鑑ミ其ノ對策トシテ一昨昭和八年ヨリ僻陬村三十ヶ村ニ付キ左記十種ノ救療藥ヲ配布シタルニ其ノ成績良好ナルモノアリキ特ニ本年ハ當地方ニ於テ數十年來ニナキ降積雪ニテ山村方面ノ交通殆ド杜絶サレ醫師ノ診療ヲ受クルコト實ニ困難ナル地方多キニ鑑ミ更ニ二十六ヶ町村ヲ増加シテ之ガ配布ヲ行ヒ其ノ利用ヲ勸奨セシニ豫想外ノ良好ニテ左記ノ如キ利用成績ヲ示スニ至レリ。

- 解熱藥 二、五三七 小兒解熱藥 一、三一〇 鎮咳藥 一、九〇二
- 小兒鎮咳藥 一、三四四 腹痛藥 一、二三八 頭痛藥 一、五七二

- 胃散 一、二九二 下痢止メ藥 一、〇〇〇 虫下シ藥 七七九
- 外傷藥 一、二五七

出張診療ニ關シテハ前年同様十六ヶ村ニ實施セシモ亦良好ノ成績ヲ擧ゲタリ。

而シテ出張診療回数九六五回患者取扱實人員二、八四一人其ノ他要救護者以外ノ村民ニシテ便宜普通治療費ヲ支拂ヒ治療ヲ受ケタル患者取扱實人員三、一一五人ニ及ベリ。

助産取扱ニ關シテハ未ダ十分趣旨ノ徹底セザル傾向アルモ漸次利用者ノ増加ヲ示シツ、アリ。

富山縣

實施ノ概況

本縣ニ於ケル時局匡救醫療救護事業ハ縣ノ地形ト醫師ノ分布状態トニ鑑ミ從來巡回診療ヲ經ト爲シ出張診療、委託診療ヲ緯トシテ相當ノ實績ヲ擧ゲ來レルモ昭和九年度ニ於テ三菱合資會社ヨリ寄附ニ係ル診療所ノ設置助成ニ依リ山漁村五ヶ村ニ設置ヲ見更ニ昭和十年度ニ於テモ五ヶ村ノ設置見込アルト國庫ヨリノ醫療費交付金減額及縣財政ノ都合ニヨル縣費繰入金ノ減額トニ依リ從來四班ノ巡回診療ヲ二班ニ減班シ醫師ナク醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル十七ヶ村ノミニ對シ毎月二回ノ診療ヲナシ出張診療モ三十九ヶ村ヲ十九ヶ村ニ減ジタルヲ以テ之ニ代フル委託診療ノ擴充ヲ圖ルト共ニ實施ニ當リテハ特ニ災害地ノ救療ニ意ヲ用ヒ一面趣旨ノ徹底ヲ圖リ濫漏救ノ弊ニ陥ラザル様努メタル結果別表ノ如ク一一、七四三人ヲ診療シ大體豫期ノ實績ヲ擧グルヲ得タリ。

尙僻陬村ノ醫療施設及公設產婆ニ對シ前年度同様補助金ノ交付ヲナシ執レモ相當ノ成績ヲ收メタリ。

鳥取縣

實施ノ概況

1 内務省交付金ハ之ヲ全額財團濟生會ニ委託シ救療ヲ行ヒタリ。

- 2 被救療者ノ資格ハ傷痰疾病出産等ニ當リ治療又ハ助産ノ資力ナク他ニ公私ノ救療ヲ受クルニ途ナキモノタルコト。
- 3 市町村長ハ警察官又ハ方面委員ノ申告ニ依リ被救療者ニ治療券又ハ助産券ヲ交付ス。但シ入院治療並手術ヲ受クベキモノ又ハ著シク長期ニ亘リ救療ヲ受クベキモノ等ニ就テハ市町村長ハ縣ニ協議ノ上決定ス。
- 4 縣及市役所、町村役場ニハ被救療者臺帳ヲ具ヘ救療ノ普及徹底ニ努メタリ。
- 5 治療券ハ^{恩賜}濟生會鳥取縣救療實施規程ニ依ルコト、シ市町村長ノ請求ニ依リ之ヲ配布スルノ外若干部數ヲ前渡シ縣ニ於テ囑託中ノ^{恩賜}濟生會醫師並齒科醫師、藥劑師又ハ產婆ニ依リ治療又ハ助産ヲ受ケシメタリ。
- 6 醫師ノ居住セザル農漁山村若ハ醫師居住スルモ著シク醫療ヲ受クルニ不便ナル二十一ヶ村ニ醫師ヲ派遣シ出張診療ヲ實施シタリ。

島根縣

實施ノ概況

昭和十年度ニ於ケル醫療救護事業ハ大體昭和九年度ノ計畫ヲ踏襲シ國庫交付金ヲ縣費へ繰入レ警察署長、市、町、村長、方面委員等ヲ督勵シ左記方法ニ依リ本事業ヲ實施シ遺憾ナキヲ期シタリ。

一、委託醫療

委託醫療費ヲ各警察署ニ割當治療券ハ地方ノ實情ヲ知悉セル市、町、村長ヲシテ之ヲ交付セシメ縣内一般開業醫師、齒科醫師、藥劑師、產婆ニ委託シ救療セリ。

二、出張醫療

無醫村中最モ不便ナル村ヲ選ビ出張診療所ヲ開設シ一ヶ所毎月三回乃至五回開業醫師ヲ出張セシメ救療ニ努メタリ。

三、巡回醫療

醫師一、雇一、看護婦一ヲ以テ巡回醫療班ヲ組織シ開業醫師ナキ僻陋村十ヶ所ヲ選ビ毎月二回宛巡回醫療ヲ實施シタリ。

其ノ他特記スベキ事項

醫療救護ハ疲弊困憊セル農漁山村ノ庶民階級救濟ノ最モ重要事業ニシテ其ノ效果ヤ寔ニ大ナルモノアリテ多大ノ感謝ヲ表シ居レリ而シテ本事業ノ繼續實施ト之ガ擴大強化ヲ渴望シツ、アリ。

岡山縣

實施ノ概況

昭和十年度醫療救護實施ニ關スル通牒ニ接シタルヲ以テ上半期分救療費ノ配當アリタルニ依リ更ニ之ニ縣費ヲ加ヘ醫師常在セザル町村ニシテ救療ヲ行フニ不便ナル十九ヶ村ニ對シテハ出張診療ヲ醫師常在セザル町村ニシテ出張診療ヲモ行フニ不便ナル十二ヶ村ニ對シテハ巡回診療ヲ其他ノ市町村ニ對シテハ委託診療ヲ行フコト、シ既往ノ實績ニ鑑ミ市町村ニ對シ救療費ノ割當ヲ爲スト共ニ直ニ之ガ施行ニ關スル通牒ヲ關係ノ向ニ發シ且ツ本事業ノ普及徹底ヲ期スル爲市町村長、警察署長、濟世顧問、濟世委員及各郡市醫師會長等ヲ召集シ打合會ヲ開催シテ關係者ノ連絡ヲ圖ル等極力之ガ主旨ノ普及徹底ニ努メタリ尙要救療者多數アリト認めラル、町村ニ對シテハ救療費ノ追加割當ヲ爲シ實施ニ關シ萬全ヲ期シタル結果本年度中ニ於テ一萬二千九十七人ノ多數ノ貧困病者ノ救療ヲ爲スコトヲ得タリ。

其ノ他特記スベキ事項

本事業實施ニ當リテハ要救療者ニ對シテ治療券ノ交付ヲ爲ストキハ先ヅ之ガ趣旨ヲ説明ノ上交付セシメ居レルヲ以テ病氣治癒ノ上ハ何レモ生業ニ就キ勤儉力行更生ノ途ニ精進セリ、其ノ主ナル一、二ヲ摘記スレバ

- 一、○田郡香○北村中○辰○〇ハ七歳ヲ頭ニ五名ノ子女アリ、家貧シク戸主辰○〇ハ日傭手傳ヲ爲シ僅カノ收入ヲ得テ一家ノ生計ヲ立テ居レリ、然ル處或ル日自轉車ニテ他行中谷川ニ落チ負傷シタル爲勞働不能トナリ一家ハ忽チ其ノ日ノ生計ニ困難ヲ來セリ、此ノ有様ニ受持濟世委員ハ村長ト協議ノ上生活ノ扶助ヲ爲スト共ニ辰太郎ニ對シテハ診療券ノ趣旨ヲ説明交付ノ上治療セシメタルニ治療一ヶ月餘ニシテ全治セリ、爲ニ一家ハ更生ノ喜ビニ輝キ辰太郎ハ從來ノ生業ニ精進セリ。

二、邑久郡牛〇町〇本〇助(十歳)ハ急性腸加答兒疾患ニテ假死ノ状態ニ陥リタルニ其ノ手當ニ窮セルヲ受持濟世委員ハ聞知シ直ニ之ニ恩賜診療券ヲ交付シ治療ヲ受ケシメタルニ病氣治癒セシニ依リ母親ハ「御蔭ニテ〇助ハ助カリマシタ誠ニ嬉シク有難ク御座イマス」ト感謝ノ意ヲ申出タリ。

三、川〇郡大〇村赤〇虎〇ハ農業ヲ營ミ妻及子供四名ヲ抱ヘ貧シキナガラモ樂シク暮セリ、然ルニ長女九歳ハ胎毒ニ罹リ全身腫レ見ル目モ可愛相ナル姿トナリ、小學校ニ於テハ仲間生徒ヨリ嫌ハレ一人淋シク遊ベル様ヲ見タル母親ノ心痛甚シキモノアリキ、此ノ事ヲ傳ヘ聞イタル濟世委員ハ診療券ヲ交付シ治療セシメタルニ間モナク治癒シ嬉々トシテ元ノ如ク遊ベル様ニ兩親ノ喜ビタトヘンモノナク濟世委員ニ對シ再三感謝ノ意ヲ述ベタリト。

廣島縣

實施ノ概況

一、要救療者資格

要救療者ハ本縣内ニ居住スル者ニシテ方面委員ニ於テ方面事業ニ於ケル生活等位ノ内所謂準「カード」階級以下ニ屬スル者ニ交付ス。

二、診療券配付方法

縣下千六百五十名ノ方面委員ニ對シ豫メ診療券ヲ配付シ置キ委員ヨリ該當者ニ交付セシム。

三、事業方法

イ、委託診療

診療ハ廣島縣醫師會及廣島縣齒科醫師會トノ契約ニ依リ之ニ引請ケシメ報酬ハ健康保險點數計算式ニ據リ支拂フコト、セリ。

ロ、出張診療

醫師ナキ町村又ハ醫療ニ不便ナル部落ヲ有スル町村ニ設置セル二十九ノ出張診療所ニ對シ醫師手當(一人平均三百三十圓)ノ二分ノ一以內ヲ補助シ事業ノ助成ヲ爲ス。

四、診療成績

本年度中ニ於テ取扱ヒシ患者ハ實人員一五、〇〇六人延人員二二四、七一三人ニシテ醫師ヨリノ請求點數四七八、九二四・三點(前半期二六五、五二一點 後半期二二二、三三三點)ニシテ査定點數三八五、六七五點(前半期二二一、三九一・五點 後半期一七二、三八三・五點)ニシテ一點單價前半期十錢一人一日十五錢五厘後半期一點單價十錢一人一日十九錢六厘ナリ。

五、出張診療所

縣下二十九ヶ所ニ於ケル出張診療所取扱患者左ノ如シ。

有料患者實人員	八、四六四名
無料(縣診療券ニヨル)患者實人員	九四七名
恩賜 濟生會取扱患者實人員	八名
財團 救護法取扱患者實人員	一〇名

其ノ他特記スベキ事項

(其ノ一)

取扱 廣島縣尾道市第一方面委員 戸 島 直 吉

茲ニ四十一歳ナル世帯主森〇太郎ナル者ト妻及幼兒三人ノ一家庭アリ。小賣商ヲ以テ生活シテ居タ所、〇太郎氏ハ心臟ニ關スル疾病ニ罹リ失業シ忽チニシテ生活困難トナツタ。妻ハ他家ノ手傳日雇等ニ備ハレ僅カノ勞銀ヲ得テ辛フジテ三人ノ糊口ヲ凌ギツ、アツタ。「カード」階級者トシテ常ニ訪問シ、〇太郎氏ヲシテ早く恢復セシムベク診療券ヲ繼續シテ交付シ、市内醫師村上氏ノ診療ヲ受ケシメツ、アツタ。病勢ハ一進一退、或時ハ重態ニ陥ツタ事モアツタガ、村上氏ノ親切ト熱心ナル診療ニ依リ漸次快方ニ向ツテ居タ。又一方年末ノ臨時給與ノ金品ヲモ交付シ出來得ル限りノ援助ヲ爲シタ。去ル一月或日〇太郎氏嬉々ト

シテ來テ曰ク「尊キ診療券ニ依リ、無料ニテ村上先生ノ親切ナル氣持良イ診療ヲ受ケ、一時危険デアツタ病勢モ大變快方ニ向ヒマシタ。此際一應御禮廻リヲ致シ度イト思フテ參リマシタ」トテ衷心ヨリ感謝ノ挨拶ヲ爲シ、尙市長、社會課及醫師ノ方々ヘモ夫々禮廻リヲ爲シタ。同氏ハ其後御調郡向島方面ヘ移轉シ同地ノ湯屋竈焚ニ雇ハレ、生活ノ光明ヲ得タルヲ悦ブ間モナク發病シ、天運如何トモシ難ク數日後遂ニ死去シタト聞キ實ニ氣ノ毒ノ至リデアツタ。方面委員ノ交付シタ診療券ニ依リ親切ニ熱心ニ同情アル施療ヲ取扱ハレタル村上氏ニ對シ私共深甚ナル感謝ヲ表スルト共ニ患者〇太郎氏ガ深ク恩ヲ感ジ禮儀ヲ盡シタコトヲ悦ブ所デアリマス。

(其ノ二)

取扱

廣島縣豊田郡第六方面委員

木

原

達

私ノ受持區内ニ準「カード」ノ旨〇〇次郎(五九歳)妻ヨ〇(六五歳)ナル家庭アリ。去ル九月十日家庭訪問ヲ爲シタル際戸内ニ一足入レルト妻ヨ〇ガ病床ニ伏シテ非常ニ苦痛ヲ訴ヘテ居ルノニ、夫〇次郎ハ默然ト只一人側ニ座シテ居ルノミデ不審ニ思ヒ尋ネルト妻ハ一週間程前カラ持病ノ喘息ガ感冒ノ爲メ急ニ悪化シマシタガ何分御見掛通り貧困ト老年夫婦デ看護ニ手ヲ取ラレ賃仕事モ出來ズ、食料モ自作農畑一畝二十三歩ヨリ得タ麥ガアルダケデソレモ早残り少ク村内ノ醫院ニハ藥價ガ滯リ、親族縁故者トハ暫ク絶交状態ニアリマスト涙ノ物語ヲ聞キ、私モ大イニ境遇ニ同情シ其處ニアル米箱ヲ見ルト麥二升バカリガ有ルノミデ、其他食料ト思フベキ何物モ見當ラズ、故ニ〇次郎ヲ連レ私宅ニ歸リ白米ヲ少シ持歸ラシメ、直様區内ノ上杉醫院ニ赴キ右ノ旨ヲ詳細ニ告ゲ診療券デ施療セラレ度シト懇願シタ所、直ニ急病ナルト貧困家庭ニ同情セラレ自轉車デ自分ト共ニ患家ニ行キ懇ニ診察セラレ、其間他ノ普通患者ト差別的態度ナク、時ニハ滋養物等ヲ與ヘ、此ノ憐ム可キ病人ヲ救ハンモノト一意専心實ニ涙グマシキ努力ヲ捧ゲラレルニ私モ勇氣付ケラレ、先ヅ醫療方面ノ安心ハ出來タケレ共、給食ノ方面ノ解決ガ急ヲ要スルノデ十六日ノ曉私宅ニ彼ノ緣故者全部ヲ會合ナサシメ、久シキ親族間ノ紛議ヲ解決シ病人ノ道ノツクマデト云フ條件ニテ各緣故者ヨリ給食スル事トシ其日ヨリ交互ニ給與シタ。然ルニ不幸ニモ十月三十日頃ヨリ病氣ガ急惡ニ向ツタ。ソシテ手ヲ盡シタニ不拘遂ニ最後ノ時ガ來タ。其節ハ上杉醫師ハ長時間枕頭ニ座サレテ容態ヲ監視セラレ、アラユル手當ヲ施サレ、或時ノ如キ

ハ非常ナル高價ナ注射藥ヲ使用セラル、等醫師トシテ萬全ヲ期サレタケレ共、天命然ラシムル所カ十一月五日感謝ノ内ニ永眠シタ。其後〇次郎ハ後妻ヲ迎ヘ貧困デアアルガ家庭的ニハ幸福ニ日々ヲ送り常ニ方面事業ニ感謝シテ居リマス。吾々方面事業使命遂行ノ任ニ當ル者トシテ上杉醫師ノ如キ温情主義デ本事業ニ理解アル村醫ノアルヲ名譽トシ、併テ力強イ後援者トシテ畏敬シテ居ル次第デアリマス。

山口縣

實施ノ概況

本縣ニ於ケル實施狀況ハ概ネ前年度ト同様ナリ。

和歌山縣

實施ノ概況

時局匡救醫療ガ實施セラレテ茲ニ四ケ年其ノ趣旨ノ普及シ貧困ニシテ醫藥ヲ得ルノ資ナキモノ聖恩ノ有難キニ歡喜シテ救療ヲ受ケ醫師モ亦聖旨ヲ奉戴シテ親切ニ患者ニ接シ其ノ成績顯著ナルモノアリ。本施設ノ擴充恒久化ヲ希望スルコト切ナリ。

其ノ他特記スベキ事項

- 一、徴兵検査ニ甲種合格シタル佐〇〇武〇ハ奉公ノ機會至レリト歡ビ居タルガ其ノ後突然兩眼表層角膜炎ニ罹リ爾來出張診療所ニテ治療ヲ受ケタルモ其ノ効ナク入營出來ザルヲ悲シミ是非入營期日迄ニ治療シ聖恩ニ報ヒ奉ラントシテ本醫療救護ニ依リ眼病院ニ入院專ラ治療ニ努メタル結果全治シテ無事入營セリ、以後聖恩ノ有難キニ感激シテ粉骨碎身亦誠ヲ以ツテ軍務ニ精勵シ其ノ成績良好ナリト云フ。
- 二、又本年三十二歳ノ土木工夫妻子四人暮シニテ辛ジテ生活シツ、アリシガ十年六月胃潰瘍ニ罹リ本人親族共ニ資力ナク且收入ノ途絶ヘ一家破滅ノ状態ニアリシヲ本醫療ニ依リテ全治セリ、爾來一家ハ御仁慈ノ洪大ナルニ感激シテ報恩ノ赤心ヨリ共ニ勤勉業ニ勵ミ圓滿ナル家庭ヲ營ミツ、アリ。

三、右ノ如キ事例ハ數多列舉シ得ル處ナルガ之等ハ從來殆ンド施スベキ方法ナシテ顧ミラレザリシヲ本施設ノ實施ニ依リ收メ得タル成果ニシテ本施設ハ單ニ肉體ノ痛苦ヲ救済スルニ止ラズ、困窮罹病者ノ精神ヲモ淨化スル教化的效果ノ偉大ナルコトヲ立證スル活資料ト謂フベキナリ。

德島縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ德島市ヲ除ク外ハ殆ド農漁山村ニシテ要救療者ノ概數ハ七萬三千六百五十三人ヲ算シ之ガ救療方法ハ委託、出張ノ二診療トシ大體前年度同様ノ方法ニ依リ施行セリ。

一、委託診療

委託診療ハ入院診療ト外來診療ニ區分シ縣下ノ醫師會、齒科醫師會、藥劑師會及產婆會ト協定シ診療調劑及助産ヲ委託スルモノニシテ市町村ニ於テハ豫メ要救療者名簿ヲ作製シ救療ヲ要スベキ患者又ハ妊婦ニ對シ救療券ヲ交付シ患者ハ係員ノ指示シタル開業醫師、藥劑師及產婆ニ就キ無料デ診療又ハ助産ヲ受ケシムルコト、シ治療費ハ協定ニ依リ定メタル標準ニ從ツテ支拂フモノトス。

イ、救療方法

縣ハ豫メ各市町村ノ要救療者數、地方疲弊ノ狀況等ヲ參酌シ割當豫算ヲ定メ救療券ヲ配布シ市町村長ガ主體トナリ方面委員、警察署ト連絡シ要救療者ヲ發見シ又ハ申出アリタル場合ハ市町村又ハ方面委員ヲ通ジテ該當患者ニ交付セシム。

ロ、救療券ノ種類

- 一 入院治療券 (治療日數十五日)
- 一 普通治療券 (治療日數三十日)
- 一 短期治療券 (治療日數十日)

一處方箋 (投藥日數十日以内トス)

一助産券 (産前ヨリ産後マデ)

ハ、救護患者ノ標準

被救療者ノ資格ハ町村ノ住民ニシテ特別稅戶數割ノ一戸平均額ノ三分ノ一以下ヲ負擔スル者ノ内ヨリ疾病傷痍ニ罹リ又ハ妊娠スルモ醫療又ハ助産ヲ受クルコトヲ得ズト認メタル者トス。

ニ、委託診療費

委託診療費トシテ一萬六千二百八十四圓ヲ各市町村ニ割當配當セリ。
一金一萬六千二百八十四圓 委託診療費

内譯

- 一金一萬四千六百八十四圓 外來診療費
- 一金一千五百圓 入院診療費
- 一金一百圓 助産並調劑費

二、出張診療

醫師ナキ村及醫師アルモ之ヲ利用スルニ甚シキ不便ニシテナキト同様ト認メラル、村ヲ選定ノ上出張診療所ヲ設置シ郡内ノ醫師ヲシテ毎月五回又ハ特ニ遠隔ノ地ニ對シテハ月三回出張シ救療患者ノ診療ニ從事シ尙餘暇ヲ利用シ一般村民ニ對シテモ輕費診療ヲ爲シタリ。

其ノ他特記スベキ事項

名西郡〇〇村

竹 〇 源 〇

右者老母妻子ノ五人暮ニシテ同人ノ日稼ヲ以テ業ト爲ス故ニ生活ニ餘裕ナク常ニ貧窮ト抗シツ、漸ク生計ヲ樹テ居タルモ昭和十年七月下旬右大腿骨膜炎ニ罹サレ病臥スルニ至ルヤ收入ノ途全ク絶ヘ醫療ヲ受クルハ勿論其ノ日ノ食物ニスラ困却シ一家心中モ計リ難キ有様ヲ方面委員ノ知ル處トナリ直ニ本施設ノ治療券ニ依リ徳島市〇〇病院ニ入院セシメ切開手術ヲ受ケタル結果經過好轉シ遂ニ全快スルヲ得タリ本人ノ感激ハ勿論家族一同ノ歡喜言フ處ヲ知ラズ唯鴻大ナル聖恩ニ感泣シ爾來業務ニ精勵シ更生ノ意氣ヲ示シ之ガ記念ニ僅少ナガラ貯蓄ヲ爲スニ至レリ。

勝浦郡〇〇村

竹 〇 〇 ナ 子

右者夫〇太郎トノ間ニ子供四人アリテ家屋敷ハ所有スルモ名ノミニシテ小作三段歩ト夫ノ日稼ニ依リサ、ヤカナル生計ヲ營ミ居レリ然ルニ昭和十年六月頃ヨリ惡質ノ眼疾ニ罹サレタルモ小作人生活ハ醫療ヲ受クルヲ許サズ僅ニ賣藥其ノ他ノ民間藥ニ依ル外詮ナキ爲病勢益々惡化シ同年九月頃ニハ全ク失明ノ状態ヲ方面委員ノ知ル處トナリ直ニ本施設ニヨル治療券ノ下附ニ依リ醫師ノ手當、手術等其ノ宜敷ヲ得一時絶望ニ瀕セル病狀モ次第ニ恢復シ同年十一月中旬ニハ全快スルニ至リ爾後夫婦業務ニ精勵シ漸次生活状態モ向上シツ、アリ斯カル事例ハ本人ノ療養掬スベキト雖醫師ノ眞摯ナル犠牲的努力ニヨルモノニシテ患者及醫師共ニ聖恩ノ渥キニ感激シタル行爲ナリト云フベシ。

右ノ如キ事例ハ多數ニシテ枚舉ニ遑アラズ而シテ本施設ニ依ル被救療者ハ單ニ病苦ヲ救済スルノミナラズ歪曲萎縮セル貧困罹病者ノ精神ヲ伸長奮起セシメ生活ノ再建ヲ覺認セシムルハ本事業ノ成果ナラムカ。

香 川 縣

實 施 ノ 概 況

本年度ノ醫療救護ハ委託診療及出張診療ニ依リ實績ヲ舉グルコト、ナリ委託診療ニ在リテハ前年度ニ引續キ治療券ニ依リ既設ノ醫療機關タル醫師、齒科醫師、藥劑師ニ委託シテ救療ノ普及徹底ヲ期シ委託診療費ハ縣下百七十四ケ市町村ニ於ケル特別稅戸數割ノ免除ヲ受クルモノ竝ニ同最低ノ賦課ヲ受クルモノ及生計困難ノ状態ニ在ルモノニシテ特ニ事情已ムヲ得ズト認メララル、モノ、戸數ニ夫々按分ノ上各警察署及方面委員ノ設置アル四十九ケ市町村ニ配當額ヲ通知シ警察署及市町村ハ關係各方面ト緊密ナル連絡ヲ保持シテ要救療者ノ發見ニ努メ醫療ニ困難セル窮民ニ對シ普ク醫療ノ恩典ニ浴セシムル様指示スルト共ニ本年度ノ醫療救護費ハ二〇、〇〇一圓ニシテ前年度ノ三一、八三七圓ニ比シ一、八三六圓ノ減少ナルヲ以テ極力濫救ヲ防止シ緊縮ノ方針ヲ採リ來リタルモ前年度來ヨリ救療中ノ患者ノ如キ俄ニ救療ヲ打切ルコトヲ得ザルモノ相當アリタル等ノ關係上、上半期ニ於テ救護費ノ大半ヲ費スノ狀況ニ立至リシ爲十月ヨリ患者ヲ嚴選シ事情已ムヲ得ザルモノニ限り承認ヲ受ケシムルコト、シ一面出張診療ハ相當多額ノ經費ヲ要スルニ拘ラズ救療人員ノ僅少ナル事例ニ鑑ミ十一月以後ニ於テ出張費ノ手當金ヲ全廢シテ救療費ニ充當スルノ方策ヲ講ジ且ツ一月ニ至リ縣費五、〇〇〇圓ノ補給ヲ得テ無告ノ窮民ヲシテ醫療ヲ受クルニ支障ナカラシムルコトヲ得タリ。

診療費ノ支拂ヒニ付テハ各郡市醫師會ニ於テ一應審査ノ上提出セシメ居レルモ縣ニ於テ特ニ衛生技師ヲシテ査定セシメ不當ノ請求ヲ排除スル等救療ノ圓滑ヲ期セリ。

其ノ他特記スベキ事項

醫療救護ノ實施セラレテヨリ病床ニ呻吟セル要救療患者ハ勿論其ノ家族等ニ於テハ宛ラ旱天ニ慈雨ヲ得タルガ如ク聖恩ノ有難サニ感泣シ敬虔ノ念ヲ持ツテ治療ニ終始シ恢復ニ至リタル者ハ鴻大ナル聖旨ニ感奮興起致々トシテ己ガ業務ニ精勵スル等枚舉ニ遑ナキ次第ニシテ從ツテ美談、佳話等ノ如キモノ隨所ニ見聞サル、所ナルガ其ノ二、三ノ例ヲ舉グレバ左ノ如シ。

1 三〇郡〇間村〇山〇代(當三十四年)ハ胎盤遺殘症ニ依リ生命ヲ云爲セラレ居リシガ入院シ手術後經過良好ニテ全治シ一家ノ主婦トシテ子弟ノ養育ニ當リ國恩ノ無遍ニシテ其ノ鴻大ナルニ感激シ居レリ。

2 三〇郡勝〇村大〇千〇〇(當三十年)胃腸病、同田〇キ〇エ(當三十二年)角膜炎ニテ業務ニ従事スルコト能ハズ貧困ニテ醫療ノ途ナク困憊其ノ極ニ達シ居リシガ救療ノ結果全治ヲ見聖代ナル御代ニ生レタル幸福ニ感泣シ業務ニ精勵シ一家ノ更生ニ

奮勵シ居レリ。

愛媛縣

實施ノ概況

一、委託診療

本年度ニ於テハ前年度ノ實施方針ニ基キ之ヲ委託診療、出張診療ニ區別シ市町村長ヲシテ診療券ノ交付ニ當ラシメ縣内開業醫ニ就キ縣醫師會ト協定セル報酬額ニ依ル診療費ヲ以テ之ガ診療ヲ委託シタルニ其ノ取扱患者實人員三千百十六名ニシテ内助産六十五名ヲ算ス、而テ之ニ要シタル診療費ハ三萬三千五百三十三圓六十八錢ニシテ救療者ハ何レモ其ノ恩典ニ浴シ得タルヲ感謝シツ、アリ。

二、出張診療

出張診療ニ於テハ主トシテ前年度同様醫師常住セザル僻陬村十一ヶ村ヲ選定シ隣接地開業醫ニ委囑シ毎月二回定期出張ヲ爲サシメタルニ之等醫療機關ニ乏シキ農漁山村民ヲシテ醫療ノ恩典ニ浴セシムルヲ得タリ、尙之ニ要シタル經費ハ出張醫師ニ對スル旅費並ニ診療場所ニ對スル賃賃料ヲ合シテ一千六百八圓十錢ヲ支出シタリ、而シテ本出張診療ヲ利用シタル一般村民ノ數又尠シトセズ醫療施設上適切ナル事業タリシモノト思料セラル。

其ノ他特記スベキ事項

(其一)

當市内某醫師ハ貧困患者ニ對シテモ何等差別的待遇ヲ爲サルノミナラズ、偶々本診療券ヲ所持シ入院醫療ヲ乞ヒタル患者ノ貧困ナル事情ニ甚シク同情シ私財ヲ以テ毎日十五錢宛牛乳其ノ他ノ榮養物ヲ購ヒ與ヘタルニ其ノ金額六十餘圓ニ達シタリト、而テ斯クノ如キ患者ニ對シテハ常ニ慰藉シ其ノ取扱特ニ丁寧ナリト云フ。

(其二)

松山市長報告

當市方面委員某ハ當年六十五歳ノ一老婆ガ幼兒ヲ抱ヘ貧窮ノ中ニモ辛ジテ生活中幼兒急病トナリタルモ醫療ノ資ナキヲ聞知シタルニ依リ診療券ノ交付ヲ爲シ醫療セヨト勸メタルニ自己ハ家出シタル幼兒ノ實母ヨリ毎月生活費トシテ五圓宛ノ仕送りアルニ付無一文トハ言ヒ難ク世ノ中ニハ自分ヨリモ貧困ノ者モ有ルベキニ付其ノ人々ニ本券ヲ交付セラレタシト辭退シタルモ同方面委員ヨリ聖旨ニ基ク事業ナルコトヲ説得シ醫療ニ就カシメタル者ナルガ同老婆ノ純情ニ痛ク感銘シタリト。

高知縣

實施ノ概況

委託診療

救療券及助産券ヲ發行シ市町村長ニ於テ方面委員、警察官吏ト協力シ市町村ノ住民ニシテ疾病傷痕出產等ノ爲メ診療又ハ手當ヲ要スルモ貧困ニシテ之ガ途ナキ者ニ發給シ醫師會員、齒科醫師會員、藥劑師會員、產婆會員若クハ救療事業ヲ實施シツ、アル社會事業團體(高知慈善協會、基督教婦人矯風會高知支部、日本赤十字社高知支部病院)ニ委託診療セシメ本年度ハ全部ヲ恩賜濟生會ヲ通ジテ行ヒ患者ハ實人員一、八五八人延人員九〇、一八九人ニシテ醫療ノ普及徹底上相當効果ヲ擧ゲタリ。

其ノ他特記スベキ事項

昭和十年八月二十八日風水害ニ際シテハ罹災救助ニ依ル醫療ト相俟ツテ罹災者ノ救療ニ萬全ヲ盡シ罹災地町村ニ對シ特ニ治療券ヲ増配シ罹災救助期間經過後ニ於テ特ニ罹災地ノ衛生狀況ニ注意シタルヲ以テ災害後ニ於ケル惡疫ノ流行ヲ防止シ相當ノ成果ヲ收メタリ。

福岡縣

實施ノ概況

昭和七年實施以來引續キ醫師會藥劑師會等ト連絡ヲ緊密ニシ普ク窮民ニ對シ醫療ヲ施シ來リシ處昭和十年度ヨリ國庫補助金六六、一五〇圓ノ豫算ニ對シ四五、二一七圓ヲ交付セラレシヲ以テ縣ノ負擔ヲ増額シ尙救療ヲ幾分手控スルノ止ムヲ得ザルニ至レ

リ。

大分縣

實施ノ概況

縣ニ於テハ從來ノ恩賜診療規程ヲ大分縣診療規程ニ改正シ國庫交付金二三、〇八六圓ニ縣費一八、〇〇〇圓ヲ加ヘ計四一、〇八六圓ノ豫算ヲ以テ前年通縣醫師會、縣齒科醫師會ニ委託シ委託診療ニ巡回診療ニ又無醫村僻陋地ニ對シテハ三十五名ノ出張診療醫ヲ囑託シ毎月六回以内出張診療ニ從事セシムル等ノ方法ニ依リ管下貧困者ニ廣ク救療ヲ徹底セシメタリ診療實人員一一、一七二人延人員一七九、七六五人ニ及ベリ。

佐賀縣

實施ノ概況

本縣ニ於ケル醫療救護ハ從來ノ救療施設ニ準ジ國庫配當金(内五、〇〇〇圓ハ恩賜濟生會ヲ通ジテ配當)並ニ縣ト恩賜濟生會及日本赤十字社佐賀支部ヨリ救療費ヲ支出セシメ諸團體協同ニテ施行シ之ニ要セシ事務費ハ縣費中ヨリ支出セリ。醫療ノ種類ハ委託診療ト出張診療ノ二法ヲ採リ一般ノ要救療者ニ對シテハ縣下各開業醫(他縣へ隣接セル町村ニ在リテハ其ノ關係他縣開業醫)又ハ病院ニ於テ委託診療ヲ施セリ。

特種ノ關係ニ在ル醫療不便地(開業醫ナキ農漁山村並ニ開業醫ノ所在地ヨリ約二里以上ノ遠距離ニ在リテ五十戸以上ヲ有スル部落及島嶼)ニ對シテハ醫療出張所ヲ設ケ前年來ヨリ實施中ナリシガ本年度ニ至リ出張所設置ノ市町村ニハ經理ノ都合ニ依リ地元負擔金ヲ支出セシメ囑託醫ヲシテ少ナクトモ毎月三回乃至五回ノ出張診療ヲ爲サシメ同地方ノ救療ト共ニ醫療ノ普及ニ努メタリ。

其ノ他特記スベキ事項

小○郡西○村大字板○

本〇〇市妻 本 ○ ト ○ エ

(三八歲)

一、恩賜治療入院全治者

右同人

一、治療入院期間

自昭和十年七月十九日
至昭和十年八月二十一日

一、入院院先

杵島郡朝日村 伊東病院

右ノ者昭和十年七月下旬ヨリ下腹部ノ激痛ヲ覺エ自宅ニ病臥呻吟中ナリシガ第二種「カード」階級ノ身分トテ受診加療ノ見込ナク不具者(跛)ノ夫ニ五人ノ子供、只々我ガ身ノ不遇ヲ嘆クノミデアツタ。

此ノ事狀ヲ傳ヘ聞イテ某方面委員ハ早速馳セ參ジテ病狀其ノ他ヲ見舞ツテ村役場ノ主任ト打合セ聖代ノ恩惠ニ浴スルヤウ最初外來診療券ヲ與ヘテ一刻モ早ク伊東病院ニ受診スルヤウ本人ハ勿論夫ニモ之ヲ獎メタ、天來ノ福音、聖恩ノ無邊ニシテ下萬民ノ卑賤ナル自分等ニ迄及ブ大御心ノ有難サニ夫婦ノ者ハ掌ヲ合セテ遙ニ東方ヲ伏シ拜ミ泪ハ止メ度モナク只ハフリ落チルノミデアツタ、二人ノ有様ニ使命ヲ傳ヘタ方面委員モ居合セタ子供達モ暫シ沈黙ノ裡ニ天恩ノ無窮サニ泣クノミデアツタ。

腹痛ヲ押シコラヘテ母ハ嘔リ泣キ乍ラ子供達ニ向ツテオ前達ハ強ク覺エテオ置キ、オ母サンノ病氣ハトテモ助カラナイ此ノ儘ニシテ於ケバ子宮瘤トナツテ一命ヲ亡クスルトノオ醫者様ノ御言葉デアツタ。

ソレニモ拘ラズ勿體ナクモ有難クモ只今ハ方面委員様ノ御計ヒデ畏レ多クモ天子様ノ尊イオ金デ私如キ賤シイ身分ノ病氣ノ者ノ爲メニ入院代モ手術代モ御飯代マデモ惠デ下サルトノ御事デス。

先代マデハ相當ニ暮シテキタ私ノ家ニ一朝家運ガ傾イテ只今ノ有様キツト皆シナハ成長シテオ天子様ノオ役ニ立ツノデスゾ。纏テ自動車デ患者ハ病院ニ運バレタ、下腹部ノ大切開ハ施サレ凡ユル行キ届イタ治療ニ手術後ノ經過ハ主治醫ノ驚歎スル程良好デアツタ、著苦シイ入院ノ生活ニ夫ハ御飯ナリトモ自分ノ手デ御恩ノ一端ニ酬キルベキト自炊シテ與ヘタ。

醫者ノ手厚キ御親切ハ恩賜入院患者ト一般患者トノ區別ハ微塵モナカツタ、恩賜入院患者ナルガ故ニ一層ノ注意ヲ拂ツテ戴イ

多事ハ一生ヲ通ジテ忘レル事ノ出来ナイ有難サデアル、恩賜券ハ期間ノ都合デ三十日間デアツタニ拘ラズ殘餘ノ四日間ハ伊東醫師ノ親切ナ御奉仕デアツタ事モ肝銘スベキ事デアル。亡キ數ニ入ル貧者ノ命ヲ助ケテ貰ツタ有難サ、イカデカ天恩ニ報ユベキ今ハ全快ノ身トナツテ聖代ノ恩澤ノ無量ナノニ毎日感謝ノ日ヲ暮シテキル次第デアリマス。

熊本縣

實施ノ概況

診療ハ前年度ト同様委託診療ニ依ルノ外開業醫師居住セザル僻陬ノ地方三十四ヶ村ニハ毎月三回定期ニ醫師ヲ出張セシメ診療ニ當ラシム。

其ノ他特記スベキ事項

一、市内(熊本市)長〇町〇野〇三郎(四六)ハ妻ハ〇(四二)外六名ノ子女ヲ擁シ豫テ市ヨリ小額ノ生業資金ヲ借入レ木履製造ヲ營ミ辛ジテ一家ノ生計ヲ維持シ其ノ日暮シノ極メテ憐愍ナル状態ニ在リタルモ夫妻ハ身體壯健ニシテ思慮深ク共ニ協力一家ノ更生ニ全能ヲ傾ケ來タリタルガ偶々昭和九年ノ最モ繁忙期ニシテ書入レ時タル十二月ニ至リ輕微ナル風邪ニ冒サレ業務ヲ爲スニ當リ多少支障ヲ來スコトアリタルモ醫藥ヲ用ユルニモ蓄ヘナク且ツ此ノ期ヲ失シテハナラジト買藥ヲ服用不斷ニ變ラズ精勵ヲ續ケ辛ジテ其ノ年ヲ送リタルモ風邪ハ一進一退ニテ快方ニ向ハズ時ニハ臥床シ業務ヲ休ム事モアリ醫師ノ診療ヲ受クルニモ其ノ資ナク途方ニ暮レ居タルニ四月ニ至リ偶々此ノ狀況ヲ方面委員ノ知ル處トナリ直ニ醫藥救護ノ治療券ヲ手續ノ上交付シ醫師ノ診療ヲ受ケシムルコト、ナレリ。診断ノ結果「肺炎カタル」ト診定サレ醫師モ本事業ノ性質ニ鑑ミ出來ル火ケノ治療ヲ施シ且本人及妻ノ熱心ナル看護ニ依リ七月ニ至リ漸ク仕事ヲ爲シ得ル程度ニ快癒シドソ底生活ヨリ救ハレ輝シキ光明ヲ得ルニ至レリ、病臥中ハ收入ノ途全ク絶ヘ日々ノ糧米ニモ事缺ク狀況ナルニ依リ方面委員ハ救護法ノ適用ノ必要ヲ認め其ノ意ヲ〇三郎ニ傳ヘタルモ〇三郎ハ醫藥ヲ頂戴シテ居ルニ此ノ上御上ノ御世話ニナツテハ勿體ナシ生計ノ方ハ近親ニ相談

シ何トカ致シタシト救護ヲ辭退シタリ。後日ニナリ聞ク所ニ依レバ妻ノ貧兒モ本事業ノ有難サニ感激シサ、ヤカナル内ヨリ生活費ノ幾分ヲ補給シタリト。

斯クテ〇三郎一家ハ愈々本施設ノ有難サニ感激シ舊ニ倍シ家業ニ精勵今日ニ至レリ。

二、市内(熊本市)本〇町佐〇木〇彦ハ賣藥行商ヲ其ノ業トシタルニ家族ノ中大正十三年八月妻女ス〇子同十四年長女フ〇子數年後次女カ〇子ト不幸ニモ次々ニ腹膜炎ヲ患ヒ死亡シタルニ之ガ爲〇彦ノ資財ハスベテ醫藥費トナリ全ク無一物ノ状態ニテ賣藥行商モ中止ノ得ムナキニ至リ、日々ノ生活ニ甚シク支障ヲ來スコト、ナレリ、其後〇彦ハ更生スベク後妻ヲ迎ヘ妻ノ野菜行商ト共ニ漸ク生計ヲ維持シ得ルヲ得タリ、然ルニ重々ノ不運ハ尙モ去ラズ昭和十年八月頃ヨリ眼病ヲ患ヒ忽チ視力薄弱トナリ殆ド歩行ニモ不自由ニテ絶體絶命ノ境地ニ陥リ本人ハ勿論妻女モ悲嘆ニ暮レ居ルヲ方面委員ノ手ニヨリ治療券ノ交付ヲ受ケ市内眼科ノ専門醫ノ治療ヲ乞ヒタルニ幸ヒ早期ノ疾病ニテ同醫師ノ厚意の治療ニテ約二ヶ月ニシテ視力ヲ回復スル事ヲ得タリ、本人並ニ妻女ノ喜ビ一方ナラズ本施設ノ有難サガ身ニ泌ミテ感ゼラレ報恩ノ意味ニテ今後全力ヲ以テ精勵シ一家ノ更生ヲ計リ以テ國家社會ニ貢獻セント強ク決意シ市ヨリ生業資金ヲ借入レ再ビ賣藥行商ヲ復活シ妻女ハ菓子行商ヲ營ミ夫婦協力以テ一家ノ更生ニ邁進シツ、アリ。

三、下〇城郡守〇村小作農竹〇〇(三二)ハ昭和九年冬期ニ入り心臓疾患並ニ氣管支炎ニ冒サレタルニ醫師ノ診療ヲ心密ニ念ジタルモ家庭ノ貧困ハ到底望ヲ叶ヘ得ベクモノナク日々ノ生活スラ容易ナラズ老母妻子ヲ擁シ病身ニ鞭チテ辛ジテ糊口ヲ凌グ状態ニテ一同悲嘆ノドン底ニ呻吟シ居タリ、然ルニ病狀ハ到底回復ノ見込ナク徒ラニ惡化スルノミニテ遂ニ翌年冬期ニ入り重態ニ陥リ農事ニ従事等ノ事ハ到底不可能ニテ本人ハ勿論家族一同モ死ヲ覺悟スル外途ナシトシ悲嘆ニ暮レ居タリシガ方面委員ノ知ル處トナリ醫藥救護ノ手續キヲ爲シ漸クニシテ醫師ノ診察ヲ受クルコトヲ得タリ、約四ヶ月間熱心ニ診療ヲ續ケ且近隣ノ同情トニ依リ次第ニ快方ニ向ヒ最早農事ニ従事スルモ差支ヘナキ迄ニ快癒シ一家ハ全ク蘇生ノ思ヲ爲シ愈々家運ノ挽回ニ邁進スベシト大ニ努力ヲ續ケツ、アリ、此ノ事實ニ依リ本施設ノ如何ニ下層社會ニ對シ有難キ施設ナルカ本家族ノ感謝

ヲ捧グ居ルコトハ云フマデモナク近隣ノ者ニ至ル迄夫々賞讃且感激ヲ表シ居ル次第ナリ。
宮崎縣

實施ノ概況

昭和十年度ハ依託診療(外來、往診、入院)ヲ主トシ一部巡回診療並ニ二十一ヶ町村ニ對スル出張診療ヲ實施セリ。
依託診療ハ市町村長ヲシテ治療券ヲ發行セシメ區長、方面委員ノ協力ヲ得テ濫救、漏救ヲ嚴戒シ成績良好ナリ。
巡回診療ハ縣内ニ於テ最モ醫療不便町村タル葉村(面積三十六方里、醫師一)ニ實施シ相當ノ成績ヲ收メタリ。
出張診療ハ縣下醫療不便町村二十一(三十九個所)ニ實施セルモ成績概シテ良好ナラズ更ニ研究ト指導ヲ要スルモノト認メタリ。

鹿兒島縣

實施ノ概況

救療計畫

- イ、特別稅戶數割免除者及其ノ家族ヲ救療ノ對象トシ豫メ家族診療券ヲ町村役場ヲ通ジテ交付シ罹病ノ都度醫療ニ接セシム。
- ロ、救療ハ委託、出張及巡回ノ三診療方法ニ依ル。
- 1 委託診療ニ於ケル救療患者ハ一二、八四〇人ヲ推算ス。(豫算四〇、八五三圓)
- 2 救療出張診療所ハ最寄醫師ヲ距ツル八軒以上戸數三百戸以上ヲ標準トシ二十ヶ所ヲ設置ス。(豫算四、八〇〇圓)
- 3 巡回診療ハ大島郡無醫僻地ニヶ村ニ付施行ス。(豫算二、七〇〇圓)
- ハ、經費ハ國費ニ依ル。

其ノ他特記スベキ事項

第一話 更生ノ一例

薩摩郡下〇〇村〇郷

農 戸主 川 〇 袈 〇 〇
(當五十四歲)

妻	〇イ(當四十六歲)	長男	〇夫(當二十五歲)
家族	四男 春〇(當十八歲)	長女	フ〇(當十五歲)
	五男 〇男(當十歲)	六男	〇男(當七歲)

右戸主ハ該當者トシテ昭和十年六月二十二日診療券ヲ交付セラレタリ、尙戸數割ハ年額最低一圓六十三錢ヲ賦課セラレ居ルモ妻長男等家族何レモ病弱ノ爲メ藥價代ニ追ハレ戸數割モ累年滯納トナリ居リ且隣接町村ノ醫師ニモ藥價ノ滯納アルタメ治療ヲ乞ヘズ眞ニ悲慘ナルモノアリタリト言フ。

然ルニ本年度該當者トシテ診療券ヲ交付セラレテヨリ妻ハ心臟瓣膜症及氣管支炎、長男ハ乾性肋膜炎ノ病名ノ下ニ醫療ニ接スルコトヲ得且長女五男六男等モ急性胃腸「カタル」、氣管支炎等ニ次々ニ罹患セルモ何レモ快癒セリ、尙妻ハ目下附近ノ藥細工所ニテ賃労働ニ従事シテ家計ヲ扶ケ長女ノ「トラホーム」モ快方ニ趣キツ、アリ、尙長女ハ高等小學校二年在學中ナルモ從來ハ月二十五錢ノ授業料モ全ク滯納セシモノガ診療券ヲ交付セラレシ以來授業料及戸數割ハ滯納ノ分迄完納スルコトヲ得テ更生ノ途ヲ辿リ感謝ノ生活ヲ營ミツ、アリ。

第二話 出稼挿話

村 長 報 告

大島郡和〇村大字王〇番地不詳〇窪〇則ハ家族六名田畑トテナク日傭稼ギニ依リ辛ウジテ生計ヲ營ミツ、アリシモ所詮此ノ儘ニテハ子女ノ養育モ困難ナリトテ單獨京阪地方目差シテ出稼ノタメ六年前船出セリトイフ、然ルニ殘サレシ妻ハ〇則ガ都ニ着イテヨリ早速來ル可キ音信モ二十日過ぎ一ヶ月過グルモ來ラズ終ニ一年二年ト經チ三年ヲ過グル頃ニハ良人ニ頼ル心モ失セ終

ニ細腕一ツデ四名ノ子女ノ養育ヲナスベク健氣ナル決心ヲナシ爾來他人ノ厄介トモナラズ其ノ日ヲ送リツ、アリシモ一昨年頃ヨリ倦怠ヲ覺ヘ「顔色悪シ」等附近ノ者ヨリ注意サレツ、モ貧苦ノ悲シサ醫療ヲ受クル術モナク其ノ中ニ癒ルコト、空頼ミシ稼ギツ、アリシモ次第ニ動悸、眩暈ヲ増シ終ニハ手足ニ浮腫ヲ生ジ全ク勞働ニ堪ヘ兼テ親子五人ノ生計ハ生死ノ岐路ニ立ツ如キ悲惨ナル状態ニ立チ到レリ、斯ル時恩賜救療ノ有難キ治療ニ浴スベキ身トナリ、十年十二月九日十二指腸蟲病ノ診斷ノ下ニ治療ヲ受ケタルヲ以テ蒼白ノ顔面ニハ血色生ジ全身ノ浮腫去リ終ニ健康體ニ復セリ、從來餓死ノ豫感ニ幾月幾歳ノ悲哀ニ滿テル生活モ母子五名ニ今ヤ更生ノ春訪レ妻ハ鴻恩ノ有難サニ感泣シツ、生活シツ、アリ。

第三話 開眼

村長報告

薩摩郡高○村久○崎○進(當四十歲)ハ妻及幼小兒四人計六人家族ニシテ日傭稼ヲ以テ生計ヲ營ミ來タルニ昭和九年末頃ヨリ視神經網膜炎ヲ患ヒ入院治療ヲ餘儀ナクシタル爲メニ多少アリタル貯蓄モ費消シ目下醫療ノ資ナク病勢昂ジテ殆ド盲目ニ等シク其ノ上家族ハ糊口ニ窮スル等他所目ニ見ルモ實ニ悲惨ナル旨方面委員ノ申告ニ依リ直チニ昭和十年七月ヨリ十一月迄本事業ノ救療ヲ施シタルニ漸次快癒ニ向ヒ現在ニ於テハ日雇稼ニ從事シ得ル程度ニ平癒シ本人ハ元ヨリ家族ノ喜ビ一方ナラズ深ク感謝シ居リ、尙近隣者モ同人ノ更生シタルヲ喜ビ社會施設ノ充實ニ感激シツ、アリ。

第四話 一挿話

薩摩郡上○村字中○番地不詳○村○次ハ一人者ニテ他ニ寄邊トテ無ク加フルニ永ク喘息、慢性氣管支「カタル」ニテ苦シミ居リシガ本救療事業ノ實施セラル、ヤ該當者トシテ救療ヲ受クルニ及ビ御趣旨ノ有難サニ感激シ「コンナ有難イ御藥ヲ頂クノニ他人ニ持參シテ來テ貰ツテハ誠ニ畏レ多イ是非自分デ頂キニ行ク」トテ片路約二軒ノ坂道ヲ苦痛ヲ忍ビ喘ギ、村立診療所ニ通ヒ、「村役場ヨリト、ケル」ト言ヒ聞カスルモ承知セズ「小學生ニ通學ノ歸路持參セシメル」ト言フモ聞カズ自ラ投藥ヲ受クル可ク同所ニ通ヒシ爲、村當局殊ニ醫師モ感心シ「オ前ニハカナハヌ」トテ特ニ懇切ニ治療シツ、アリシガ遂ニ八年八月一日

六十一歳ニテ鬼籍ニ登レリ、今尙村人爐邊ノ語草ト爲スト言フ。

第五話 飯匙蛇咬傷

警察署長報告

大島郡三○村知名○番地不詳農業○義○(當四十二年)ハ昭和十年五月中旬頃稼ノタメ山ニ登リ歸途飯匙蛇ノ咬傷ヲ受ケタリ、而シテ右咬傷ヲ受ケタル際ハ適當ノ醫療ヲ受ケザレバ死亡乃至不具者トナルニヨリ、生計困難ニシテ治療費ナキタメ悲嘆ニ暮レ居タルモ該當者トシテ診療券ニ依リ治療ヲ受クルコトヲ得タ爲、不具トモナラズ全治シ目下生業ニ精勵シツ、アリ。然シテ右診療券ハ恩賜ニ依ルモノナルヲ以テ皇恩ノ普キニ感謝シ目下毎朝皇居ヲ遙拜シ皇室ノ彌榮ヲ祈リ奉リ診療券ハ佛壇ニ供ヘ居レリ。

第六話 視力恢復

村長報告

大○郡和○村大字國○番地不詳○中○ヤ(當四十三歲)ハ一男二女アリ數年前家財ヲ取纏メ臺灣ニ出稼中ノ夫ノ下ニ赴キシモ事情アリテ二女ヲ伴ヒ着ノミ着ノ儘ニテ歸郷セルモ借財コソアレ住家ナク田地ナキタメ長女(當十八歲)次女(當十六歲)ト共ニ年期奉公トシテ働クコト、ナレリ、然ルニ次女ハ昭和十年四月頃ヨリ左眼虹彩炎ヲ患ヒタルヲ以テ親子ノ稼高ニ依リ漸ク醫療ヲ受ケ輕快セシモ同症再發セリ。然ルニ養生費支出ハ困窮ノ身ナルヲ以テ充分ナラズ例ヘ一眼ヲ失フモ治療ヲ中止スベキ状態ニ達シ母子只不遇ヲ悲シムノ外ナカリシニ、アタカモ新年度該當者選定ニ際シ救療該當者トシテ診療券ヲ交付セラレ充分ニ醫療ニ接スル事ヲ得テ視力全ク恢復シ一家ノ歡喜比スベキモノナキ有様ナリ、其ノ後一家ハ更ニ種子島ヘ出稼ノタメ移住セルモ今頃ハ、鴻恩ニ感泣シ更生ノ途ヲ辿リツ、アルモノト思ハル。

第七話 報恩

薩摩郡上○村字中○戸主○○十○郎(當四十三歲)外家族七名

右ハ小作農及他家ノ雜用報酬ニヨリ辛ウジテ生計ヲ立テ住家ノ如キモ四疊一間ニテ殆ド人家トハ名ノミニテ加フルニ海岸ニ近ク寒風吹キ込ミ實ニ悲慘ナル有様ナリ、尙戸主ハ以前胃加答兒及十二指腸蟲ノタメ榮養不良、勞役ニ從事スルコトモ能ハザリシガ本年度ヨリ該當者トシテノ取扱ヲ受クルニ至リ自由ニ醫療ニ接シ得、十年八月頃ヨリ元氣回復毎日仕事ニ從事シ得ル體トナリ、又妻及息三人モ中耳炎、腸カタル等ニ罹患セルモ何レモ快癒セルヲ以テ欣喜シ感激ノ餘リ

「天皇様ニ御恩返シガシタイ」トテ日稼ノ餘暇ヲ以テ進ンデ村ノ勞役ニ服シ又主治醫(村立診療所々長)ノ雜用ヲ爲ス等美シキ心情ヲ表セリ。

第八話 孫ノ命

警察署長報告

鹿兒島郡吉○村本○
農業 與 ○ ○ 郎
(當七十七年)

右ノ者ハ長男○吉(當三十四年)婦○イ(當四十年)孫四人計七人暮ナルガ剩ヘ本人及長男ハ身體虛弱ニシテ病氣勝ナル爲勞働ニ堪ヘ難ク婦一人ガ農耕ト日稼ヲナシ漸ク生計ヲ營ミ居リタル處二、三年前孫ニ當ル○(昭和二年生)及○義(昭和四年生)ノ兩名ガ發病セルヲ以テ醫療ヲ受ケントシタルモ藥代ナキタメ治療ヲ乞ヒ得ズ惡化シテ遂ニ死亡スルニ至レリ、然ルニ昭和十年更ニ孫○(當五年)ガ不幸ニシテ胃腸病ニ罹リタルモ、從來ナレバ貧困ノ爲醫師ヲ迎ヘル事能ハズ先ニ死亡セル孫同様見ス、死亡ハ免レザルヲ現在該當者トシテ恩賜救療ノ恩命ニ浴シ居ル爲メ自由ニ醫療ニ接シ得、約五十日ニテ全快一命ヲ取り止メタリ、是レ實ニ聖恩ノ然ラシムル處ニシテ尙本人モ目下救療ヲ受ケツ、アリテ一段ト感銘シ毎日遙拜シテ感謝シ居ルト涙ナガラニ物語リヲ爲シツ、アリ。

第九話 體力回復

警察署長報告

熊毛郡下○久村栗生○○八(明治十四年生)ハ妻子五人暮シナルモ何等資産ナク本人ハ平常病弱ニシテ家業ニ精勵スルヲ得ザル上、子供ノミナル爲妻ノ木炭焼ニ依ツテ、至ツテ困窮ナル生活ヲ爲シ居ルモノナリ。然ルニ昭和九年二月持病ノ胃腸病及神經痛漸次惡化シ來リ病床ニ呻吟シ居ルモ醫療ニ接スルヲ得ズ増惡ノ途ヲ辿ルノミナリ、昭和十年度ニ至リ該當者トシテ診療券ノ交付ヲ受ケ再生ノ思ヒシテ醫師ノ治療ヲ受ケテヨリ一時ハ主治醫ニ於テモ生命ヲ氣遣ハレタル程ナリシモ其ノ後漸次醫療ノ效果顯ハレ當時ノ苦痛モ今日ニ於テハ全ク無ク、體力モ回復シ家業ニ從事スルヲ得ルニ至レリ。

本人ノ一命ヲ取り止メ一家ヲ更生セシメタルハ御慈悲ニ依ルモノナリトテ感泣シ診療券ハ佛前ニ供ヘ本人ハ勿論家族親族ニ於テモ聖恩ノ有難サニ感謝發奮シ一家揃ツテ家業ニ精勵シツ、アリ。

第十話 醫師ノ報告

村長報告

昭和十一年二月二十五日 ○○醫院
我が國農山漁村ノ不況近年其ノ極ニ達シ窮民ハ醫學ノ發達セル現代ニ生レナガラ醫療費ナキ爲メ病床ニ呻吟シツ、尙醫療ヲ受ケ得ヌ者多數アリ。

畏クモ 聖上陛下ニ於カセラレテハ吾等細民ノ醫療普及ニ御軫念アラセラレ御内帑金ヨリ多額ノ醫療救護費ヲ御下賜アラセラレタリ、吾等市井ニ開業スル醫師モ縣當局ヨリ此ノ有難キ醫療ヲ委囑セラレ昭和七年十月ヨリ今日迄多數ノ患者ヲ診療スルノ光榮ニ浴シツ、アリ。

茲ニ一、二治驗例ヲ摘録セントス。

一、和○村大字和泊番地不詳○部○ネ外來トシテ診ヲ受ク、同人ハ赤貧洗フガ如キ家庭ニシテ漸ク其ノ日ノ糊口ヲ凌ギツ、ア